



さとうきび不作で種子島視察

自民党の野菜・果樹・畑作物等対策委員会来島

「3月21日」今期産のさとうきびが収量・糖度ともに過去最低水準の不作見込みとなったことから、自民党の野菜・果樹・畑作物等対策委員会が現地調査に訪れました。

森山裕氏（農林・食料戦略調査会特任顧問・国会対策委員長）や宮下一郎氏（野菜・果樹・畑作物等対策委員会団長）の国会議員を始め関係機関等約50名が来島しました。

現地調査として、圃場・農道の状況・精脱葉施設・新光糖業を視察し、最後に中種子町の中央公民館で、行政・JA関係機関等と意見交換会が行なわれました。



▲中種子町の浦元隆一さん圃場で、現地調査が行われました。浦元隆一さんは、「台風で葉が裂け、糖度が上がらなかつた。通常7、8トンの単収がある畑で5トほどしかない。」と厳しい現状を訴えました。



▲精脱葉施設の説明がなされました（中種子精脱）



▶浦元隆一さんの話を聞きさとうきびを手に現状の確認を行う森山裕氏



▲工場内視察の様子

新光糖業では、さとうきびの見込みの説明がされ、18日現在で、単収4971キ、生産量11万3459トと過去最低水準の見込み。平均糖度は、11.03度で昨季を約2度近く下回っていると報告されました。



▲新光糖業より今年の見込み報告



▲行政・JA関係機関が一同に会しての意見交換会



▲挨拶される森山裕氏

意見交換会では、災害などに備えたセーフティネット（さとうきび増産基金）を低糖度の場合でも発動できるように求める声などがあがりました。

